

日本未来派と私

伊東 廉

春先の午後だったと思う。朝日新聞社玄関
 ホールで待っているところにおお伊東さん、ほ
 く土橋ですと大きな声で現れた土橋さん。
 初対面なのに十年の知己のように早口に次か
 ら次へと話し続けた。佐川さんも了解して
 いるから、すぐ作品送りなさいと言われ、
 忙しそうに土橋さんと別れた。

これより少し前、私の詩集『失意の雪』を
 お贈りすると、その社状に太字万年筆で書か
 れた独特の筆跡で、日本未来派で勉強してみ
 ませんかとあった。上京の折お会いして昭和
 三十三年以来ずっと同人と続けている。未来
 派と去られてからもお便り頂いていた。それ
 から数年後、慶応大学で肺機能と研修中、神
 田トミカガリルかごで会合があった。永瀬靖子
 さんが藤原菜穂子さんと連れて来られた。私
 は一人ぼつねんとしていたら、ぼくは沖繩で